

■柱Ⅰ：その人らしい高齢期の暮らしと活動を応援する施策

施策領域	取り組み内容（令和６年度）と成果	今後の方向（令和７・８年度）																							
① 健康づくり・ 介護予防の充実	○全町による健康づくり運動せいか３６５の取り組み継続	○介護予防講座「シニアのための健康づくり講座」は受講者も多く、今後も継続して実施していく。令和７年度も年間１２回の開催を予定している。																							
	○介護予防講座「シニアのための健康づくり講座」の実施																								
	<table><tr><td colspan="2">年度</td><td>令和６年度</td><td>令和７年度</td><td>令和８年度</td></tr><tr><td rowspan="2">参加延べ人数</td><td>目標</td><td>800 人</td><td>800 人</td><td>800 人</td></tr><tr><td>実績</td><td>565 人</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td rowspan="2">実施回数</td><td>目標</td><td>12 回</td><td>12 回</td><td>12 回</td></tr><tr><td>実績</td><td>12 回</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>		年度		令和６年度	令和７年度	令和８年度	参加延べ人数	目標	800 人	800 人	800 人	実績	565 人	—	—	実施回数	目標	12 回	12 回	12 回	実績	12 回	—	—
	年度		令和６年度	令和７年度	令和８年度																				
	参加延べ人数		目標	800 人	800 人	800 人																			
			実績	565 人	—	—																			
	実施回数		目標	12 回	12 回	12 回																			
			実績	12 回	—	—																			
	○フレイル予防講座の通いの場への専門職派遣回数																								
	・高齢者ふれあいサロン：15 回、体操の居場所：16 回、老人クラブ等：3 回																								
・保健師のフレイル予防講座と栄養士、歯科衛生士、フィットネス講師による講義・実技																									
・フレイル予備軍、対象者の早期発見のため、通いの場への専門職派遣と併せて参加者に基本チェックリストの実施																									
<table><tr><td colspan="2">年度</td><td>令和６年度</td><td>令和７年度</td><td>令和８年度</td></tr><tr><td rowspan="2">参加延べ人数</td><td>目標</td><td>800 人</td><td>800 人</td><td>800 人</td></tr><tr><td>実績</td><td>455 人</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td rowspan="2">実施箇所数</td><td>目標</td><td>45 か所</td><td>45 か所</td><td>45 か所</td></tr><tr><td>実績</td><td>34 か所</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	年度		令和６年度	令和７年度	令和８年度	参加延べ人数	目標	800 人	800 人	800 人	実績	455 人	—	—	実施箇所数	目標	45 か所	45 か所	45 か所	実績	34 か所	—	—		
年度		令和６年度	令和７年度	令和８年度																					
参加延べ人数	目標	800 人	800 人	800 人																					
	実績	455 人	—	—																					
実施箇所数	目標	45 か所	45 か所	45 か所																					
	実績	34 か所	—	—																					
・通いの場への介護予防講師派遣は、毎年講話の内容を見直しながら、継続して派遣しており、目標値には至らないが、実施箇所数・参加者数ともに横ばいである。																									
○健康づくり・介護予防サポーター活動支援																									
・介護予防サポーターを中心に各地域で住民主体の体操の居場所づくり事業を実施。住民主体での通いの場の運営支援やフレイル予防の支援対策を強化し、体操の居場所の設置数は目標達成を図れた。																									
<table><tr><td colspan="2">年度</td><td>令和６年度</td><td>令和７年度</td><td>令和８年度</td></tr><tr><td rowspan="2">実施箇所数</td><td>目標</td><td>30 か所</td><td>30 か所</td><td>30 か所</td></tr><tr><td>実績</td><td>32 か所</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td rowspan="2">新規箇所数</td><td>目標</td><td>1 か所</td><td>1 か所</td><td>1 か所</td></tr><tr><td>実績</td><td>0 か所</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	年度		令和６年度	令和７年度	令和８年度	実施箇所数	目標	30 か所	30 か所	30 か所	実績	32 か所	—	—	新規箇所数	目標	1 か所	1 か所	1 か所	実績	0 か所	—	—		
年度		令和６年度	令和７年度	令和８年度																					
実施箇所数	目標	30 か所	30 か所	30 か所																					
	実績	32 か所	—	—																					
新規箇所数	目標	1 か所	1 か所	1 か所																					
	実績	0 か所	—	—																					
・健康づくり・介護予防サポーター養成事業の実施																									
<table><tr><td colspan="2">年度</td><td>令和６年度</td><td>令和７年度</td><td>令和８年度</td></tr><tr><td rowspan="2">養成実人数</td><td>目標</td><td>10 人</td><td>10 人</td><td>10 人</td></tr><tr><td>実績</td><td>21 人</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td rowspan="2">養成者数【合計】</td><td>目標</td><td>143 人</td><td>153 人</td><td>163 人</td></tr><tr><td>実績</td><td>156 人</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	年度		令和６年度	令和７年度	令和８年度	養成実人数	目標	10 人	10 人	10 人	実績	21 人	—	—	養成者数【合計】	目標	143 人	153 人	163 人	実績	156 人	—	—		
年度		令和６年度	令和７年度	令和８年度																					
養成実人数	目標	10 人	10 人	10 人																					
	実績	21 人	—	—																					
養成者数【合計】	目標	143 人	153 人	163 人																					
	実績	156 人	—	—																					

○フレイル予防講座の通いの場の専門職派遣について、主に高齢者ふれあいサロンに派遣していることから、体操の居場所や老人クラブへの派遣の拡大を図る。
○令和７年度は、３か年実施してきた「人生活躍セミナー」の受講者のフォローアップ研修を実施し、地域の活動団体につながるよう支援していく。
○「すてき６５メイト養成講座」を毎年開催していく。今後、介護人材やボランティア育成等について、関係団体等と地域の人材育成の在り方を検討していく。

計画に基づく高齢福祉施策の取り組み内容と今後の方向

③ 地域での支え合いネットワークの構築	○自治会を単位とし小地域福祉委員会が21カ所で組織され、地域の助け合い活動として見守り活動や居場所づくりなどを行っている。 ○絆ネットコーディネーターを社会福祉協議会に配置し、地域課題に応じた横断的な調整を行っている。 ○緊急通報装置の設置について、令和5年度から利用料の無償化しており、利用者は増加傾向にある。 <table><tr><td colspan="2">年度</td><td>令和6年度</td><td>令和7年度</td><td>令和8年度</td></tr><tr><td>利用者数(年度末)</td><td>実績</td><td>38人</td><td>—</td><td>—</td></tr></table> ○8050問題やダブルケアなど複雑化・複合化した支援ニーズを抱える高齢者が増加傾向にあることから、社会福祉法第106条の4の規定に基づき、分野を超えてさまざまな関係機関と連携し、高齢者を包括的に支援する重層的支援体制整備事業を新たに実施した。令和6年12月からは、町内の地域包括支援センターを2か所から3か所に増設し、相談業務等の機能充実を図った。	年度		令和6年度	令和7年度	令和8年度	利用者数(年度末)	実績	38人	—	—	○絆ネットコーディネーター及び各生活圏域ごとの生活支援コーディネーターとの連携を図り、地域課題に対しての取り組みを推進していく。地域課題の解決のため、協議の場の設定（協議体）の運営を図っていく。 ○緊急通報装置設置事業の周知に努め、利用者の拡大を図る。 ○毎年、社会福祉課と連携し、避難行動要支援者の把握に努めている。																						
年度		令和6年度	令和7年度	令和8年度																														
利用者数(年度末)	実績	38人	—	—																														
④ 権利擁護対策等の推進	○高齢者人口増や核家族化等の背景もあり、養護者による虐待対応事案が増えていることから、地域包括支援センター等と連携し、支援を進めている。 ○高齢者の後見利用支援事業利用者数 <table><tr><td colspan="2">年度</td><td>令和6年度</td><td>令和7年度</td><td>令和8年度</td></tr><tr><td rowspan="2">利用者数(年度末)</td><td>目標</td><td>3人</td><td>3人</td><td>3人</td></tr><tr><td>実績</td><td>3人</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	年度		令和6年度	令和7年度	令和8年度	利用者数(年度末)	目標	3人	3人	3人	実績	3人	—	—	○高齢者虐待の未然防止・早期発見のため周知啓発の強化を図っていく。 ○精華町権利擁護・成年後見センターと連携し、必要者の利用促進を図っていく。																		
年度		令和6年度	令和7年度	令和8年度																														
利用者数(年度末)	目標	3人	3人	3人																														
	実績	3人	—	—																														
⑤ 生活支援体制等の充実	○生活支援コーディネーターとの連携会議1回／月開催。地域課題の取り組みについて協議し、生活支援について等地域団体支援や地域の取り組みの推進を図っている。 <table><tr><td colspan="2">年度</td><td>令和6年度</td><td>令和7年度</td><td>令和8年度</td></tr><tr><td rowspan="2">第1層生活支援コーディネーター配置</td><td>目標</td><td>1か所</td><td>1か所</td><td>1か所</td></tr><tr><td>実績</td><td>1か所</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td rowspan="2">第2層生活支援コーディネーター配置</td><td>目標</td><td>2か所</td><td>2か所</td><td>2か所</td></tr><tr><td>実績</td><td>3か所</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td rowspan="2">協議体回数</td><td>目標</td><td>1回</td><td>1回</td><td>1回</td></tr><tr><td>実績</td><td>1回</td><td>—</td><td>—</td></tr></table> ○高齢者自身も担い手として活躍できる地域をめざし、人材発掘や社会参加を目的とした「人生活躍セミナー」を継続して実施。（参加者31名、全6回）	年度		令和6年度	令和7年度	令和8年度	第1層生活支援コーディネーター配置	目標	1か所	1か所	1か所	実績	1か所	—	—	第2層生活支援コーディネーター配置	目標	2か所	2か所	2か所	実績	3か所	—	—	協議体回数	目標	1回	1回	1回	実績	1回	—	—	○絆ネットコーディネーター及び各生活圏域ごとの生活支援コーディネーターとの連携を図り、地域課題に対しての取り組みを推進していく。 ○地域資源開発や人材育成のための協議・取り組みを進めていく。
年度		令和6年度	令和7年度	令和8年度																														
第1層生活支援コーディネーター配置	目標	1か所	1か所	1か所																														
	実績	1か所	—	—																														
第2層生活支援コーディネーター配置	目標	2か所	2か所	2か所																														
	実績	3か所	—	—																														
協議体回数	目標	1回	1回	1回																														
	実績	1回	—	—																														
⑥ やさしいまちづくりの推進	○地域の移動手段の担い手育成について、社会福祉協議会と連携し、「運転協力者養成講習会」を実施。 実施日：令和7年2月28日 参加者数：10名	○高齢者の住まい、移動等に係るまちづくりについて、関係機関と調整を図りながら高齢になっても住み慣れた地域で安心して生活できる環境、まちづくりを推進していく。																																
⑦ 地域での災害や感染症に係る体制整備	○災害時における避難行動要支援者の避難行動の支援について、関係各課（危機管理室、社会福祉課、高齢福祉課、健康推進課）と協議し、プロセスや役割分担を整理した後、災害種別に応じて対象者を抽出し、医療依存度の高い方を対象に個別避難計画の作成に取り組んだ。	○避難行動要支援者に対する個別避難計画については、社会福祉課が中心となり、民生委員に協力していただき、訪問や聞き取りに取り組んでいる。																																

計画に基づく高齢福祉施策の取り組み内容と今後の方向

■柱２：介護が必要になったときの安心をつくる施策

施策領域	取り組み内容（令和６年度）	今後の方向（令和７・８年度）																																														
① 在宅医療・介護連携の推進	○相楽医師会や介護事業所、行政等と多職種での医療・介護連携の強化に向けて、定期的に協議を行った。 ○多職種連携等の研修の実施、山城南つながるねっと：WEB運営等 ○高齢者ふれあいサロンで健康づくり、介護予防の医師の講話、看取りについての啓発を実施（令和６年度８箇所実施） ○ふれあいまつり（令和６年６月２日開催）にて、医師やケアマネジャー等の多職種による看取りをテーマにした寸劇を実施 ○地域密着型サービス事業所（グループホーム）の整備について、町有地貸付を可能とした内容で公募を実施し、事業者を決定した。 【決定事業者】社会福祉法人 洛和福社会 【整備施設】 認知症対応型共同生活介護（グループホーム）（定員 27 名、３ユニット） 【整備予定地】精華町祝園一ノ坪２－１（旧ほうその保育所跡地）	○相楽圏域全体による、多職種連携による在宅医療・介護連携の協議及び取り組みを推進していく。 ○災害や感染症の感染拡大時に備え、医療介護情報の啓発や関連機関との連携強化を図る。 ○グループホームの整備については、令和８年２月工事着工予定であり、令和８年９月の開所を目指し、事業者と調整を図りながら取り組んでいく。																																														
② 地域包括支援センターの運営強化	○相談支援体制強化のため、令和６年１２月から地域包括支援センターの新規増設を行った。 ・北部（川西・精北小学校区）：社会福祉法人カトリック京都司教区カリタス会（神の園） ・中部（精華台・東光小学校区）：社会福祉法人 精華町社会福祉協議会 【新】・南部（山田荘小学校区）：社会福祉法人 芳梅会 <table><tr><th colspan="2">年度</th><th>令和６年度</th><th>令和７年度</th><th>令和８年度</th></tr><tr><th rowspan="2">設置数</th><th>目標</th><td>３か所</td><td>３か所</td><td>３か所</td></tr><tr><th>実績</th><td>３か所</td><td>—</td><td>—</td></tr></table> ○困難事例等の個別地域ケア会議と併せ、令和４年度から自立支援型地域ケア会議を開催し、協議・調整を図っている。令和６年度は、初めて、地域ケア推進会議を開催し、これまでの地域ケア会議を通じて出てきた地域課題や地域包括支援センターが日々の相談の中で見えてきた地域課題などについて話し合い、地域課題の整理を行った。 <table><tr><th colspan="2">年度</th><th>令和６年度</th><th>令和７年度</th><th>令和８年度</th></tr><tr><th rowspan="2">個別地域ケア会議</th><th>目標</th><td>５回</td><td>６回</td><td>６回</td></tr><tr><th>実績</th><td>６回</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><th rowspan="2">自立支援型地域ケア会議</th><th>目標</th><td>４回</td><td>４回</td><td>４回</td></tr><tr><th>実績</th><td>３回</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><th rowspan="2">地域ケア推進会議</th><th>目標</th><td>１回</td><td>１回</td><td>１回</td></tr><tr><th>実績</th><td>１回</td><td>—</td><td>—</td></tr></table>	年度		令和６年度	令和７年度	令和８年度	設置数	目標	３か所	３か所	３か所	実績	３か所	—	—	年度		令和６年度	令和７年度	令和８年度	個別地域ケア会議	目標	５回	６回	６回	実績	６回	—	—	自立支援型地域ケア会議	目標	４回	４回	４回	実績	３回	—	—	地域ケア推進会議	目標	１回	１回	１回	実績	１回	—	—	○町内３か所（北部・中部・南部）となった地域包括支援センターの周知に努めるとともに、包括連絡会議を月１回行うことで、連携強化に努める。 ○地域包括支援センター主催の自立支援型個別地域ケア会議開催を目指す。また地域ケア推進会議を令和７年度も継続して実施し、地域課題について、解決策を検討していく。
年度		令和６年度	令和７年度	令和８年度																																												
設置数	目標	３か所	３か所	３か所																																												
	実績	３か所	—	—																																												
年度		令和６年度	令和７年度	令和８年度																																												
個別地域ケア会議	目標	５回	６回	６回																																												
	実績	６回	—	—																																												
自立支援型地域ケア会議	目標	４回	４回	４回																																												
	実績	３回	—	—																																												
地域ケア推進会議	目標	１回	１回	１回																																												
	実績	１回	—	—																																												

計画に基づく高齢福祉施策の取り組み内容と今後の方向

③ 認知症対策の充実

○認知症カフェの設置 町内4カ所

年度		令和6年度	令和7年度	令和8年度
実施箇所数	目標	7カ所	7カ所	7カ所
	実績	4カ所	—	—

○認知症サポーターとその講師役となるキャラバンメイトを精華町キャラバンメイト連絡会（平成25年10月発足）と連携し、養成に取り組んだ。

年度		令和6年度	令和7年度	令和8年度
サポーター延べ人数	目標	11,011人	11,511人	12,011人
	実績	11,320人	—	—
メイト延べ人数	目標	229人	239人	249人
	実績	247人	—	—

○地域回想法リーダー（地域回想法つなぎ隊）による、普及啓発
高齢者ふれあいサロン：6箇所、回想法体験会実施：12月13日開催

○初期集中支援チームにより、早期に認知症支援に取り組んでいる。6月末時点3件対応し、それぞれ、医療や介護サービスに結び付いている。

年度		令和6年度	令和7年度	令和8年度
支援件数	目標	10件	10件	10件
	実績	3件	—	—

○令和5年度に立ち上げた「チームオレンジ」の連絡協議会やステップアップ講座を実施

○あんしん見守りシンポジウムを実施（参加者：108人、実施日：令和7年2月9日）
【内容】①活動報告「精華町チームオレンジ」でやさしいまちづくり
②特別上映会 「オレンジ・ランプ」

年度		令和6年度	令和7年度	令和8年度
シンポジウム開催回数	目標	1回	1回	1回
	実績	1回	—	—

○認知症当事者の集える場所の設置を目指して、「認知症当事者及び家族の集い」開催

○認知症高齢者等個人賠償責任保険事業の実施（登録者32名、令和6年3月末時点）

○精華町認知症高齢者等SOSネットワーク事業

年度		令和6年度	令和7年度	令和8年度
事前登録者数	目標	90人	100人	100人
	実績	93人	—	—

○認知症への理解等、引き続きキャラバンメイトによるサポーター養成を進めていくため、令和7年度は住民に広く呼びかけてのサポーター養成講座を初めて実施した。（以前は、希望のある企業等への出前講座のみ）

○令和7年度からは、サロンで地域住民に回想法を実施する際に、地域包括支援センターの職員が認知症のミニ講座を合わせて行うことで、認知症の正しい理解の周知に努めている。

○認知症の人や家族の支援ニーズと支援をつなぎ、認知症になっても安心して暮らし続けられる地域づくりを推進するため、本人・家族を含む地域サポーターと多職種の地域サポーターチーム「チームオレンジ」の登録団体を増やしていく。

○あんしん見守りシンポジウムを継続して実施していく。

○認知症の人が希望や必要としていることを語り合う「本人ミーティング」の場として、継続的に当事者の会等を開催していく。また、ピアサポート等の支援体制をすすめていく。

○令和7年度は、既存の認知症ケアパスの内容を見直し、認知症の当事者の声や新しい認知症観等を追加して新たに作成した。また、認知症の人と家族の会京都府支部との共催で、認知症の方を介護する家族等を対象とした5回の連続講座を実施している。

計画に基づく高齢福祉施策の取り組み内容と今後の方向

④ 家族介護者支援の推進	○北部圏域、中部・南部圏域において、年２回リフレッシュ事業を実施した。 <table><tr><th colspan="2">年度</th><th>令和６年度</th><th>令和７年度</th><th>令和８年度</th></tr><tr><td rowspan="2">実施回数</td><td>目標</td><td>６回</td><td>６回</td><td>６回</td></tr><tr><td>実績</td><td>４回</td><td>—</td><td>—</td></tr><tr><td rowspan="2">参加延人数</td><td>目標</td><td>95人</td><td>95人</td><td>95人</td></tr><tr><td>実績</td><td>69人</td><td>—</td><td>—</td></tr></table> 【北部（神の園）】 １回目：バスでのお出かけ（ローザンベリー多和田）（20名参加） ２回目：寄せ植え体験（28名参加） 【中部・南部（社協）】 １回目：巻き玉のキーホルダー作り、介護者家族の会なでしこの会との交流会（11名参加） ２回目：バスでのお出かけ（和束町）、介護者交流会（10名参加）	年度		令和６年度	令和７年度	令和８年度	実施回数	目標	６回	６回	６回	実績	４回	—	—	参加延人数	目標	95人	95人	95人	実績	69人	—	—	○家族同士の交流の機会や相談支援、介護者家族の会の活動支援を進めていく。
年度		令和６年度	令和７年度	令和８年度																					
実施回数	目標	６回	６回	６回																					
	実績	４回	—	—																					
参加延人数	目標	95人	95人	95人																					
	実績	69人	—	—																					
⑤ 介護保険事業の適正な運営	○令和６年度制度改正を反映した介護保険パンフレットを作成（令和６年１０月）し、高齢福祉課窓口や各地域包括支援センターで相談者等に配布した。 ○要介護認定にかかる認定調査の実施及び介護認定審査会での審査判定を実施（審査件数：1,138件） ○介護給付適正化事業として、「ケアプラン点検」を継続実施（実施日：令和６年１１月１２日） ○居宅介護事業所等に集団指導及び実地指導を実施 ・集団指導実施日：令和６年６月１9日 ・実地指導は、町内の居宅支援事業所２カ所において実施。	○「要介護認定の適正化」「ケアプラン点検」「医療情報との突合・縦覧点検」を継続的に実施することにより介護給付費の適正化を推進していく。 ○町指定の事業所（居宅介護支援、地域密着型サービス）について、集団指導（年１回）、実地指導（年２～３か所）を実施する。																							
⑥ 介護人材の確保	○介護人材やボランティア育成等について、関係団体等と地域の人材育成の在り方を検討していく。 ○事業所での文書負担軽減を図るため、「電子申請届出システム」により、オンラインで指定申請や加算届出が行える体制整備を行う。（令和６年１０月運用開始）	○介護人材やボランティア育成等について、関係団体等と地域の人材育成の在り方を検討していく。 ○電子申請届出システムを周知するとともに、運用について支援していく。																							